'95 10月号 No.516

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第２０５５回★★ 伏見山 710.1m	10／7（土） 7：10 壬生厚生会館前	大槻　雅弘 （703）	壬生－福知山－中佐々木－仏坂…仏坂峠…伏見山（往路下山）
ずっと出していて行けてない山です。			
第２０５６回★★ 鉢盛山 2,446.4m 一等三角点 木曽，信濃国境	10／14（土）～15日（日） 5：00　壬生集合	岡田　茂久 （790）	京都－塩尻ＩＣ－御馬越－岳沢登山口…鉢盛山…岳沢登山口－塩尻－奈川渡－野麦峠…鎌ケ峰…野麦峠－高山－中津川ＩＣ－京都
信州の山々は秋真っ盛り，錦繍を賞でながら乗鞍岳，御岳，北アルプス，南アルプスまでの最高の展望を楽しもう。マイカー山行，テント泊まりのため申込は先着６名迄。 地図　1／2.5万図　古見，贄川			
第２０５７回★★ 鈴鹿山脈 綿向山 1,110m	10／21（土）	馬淵　拓巳 （822－9104） （508）	秋の鈴鹿に登ります。帰りに温泉に立ち寄る予定です。マイカーで行きます。
第２０５８回★ 古稀登山（湖北の山） 己高山 923.1m	10／22（日） 7：00 壬生厚生会館前	奥村　弘信 （791－7450） 大倉寛治郎 （642－4332） （3371）	京都東ＩＣ－木之本ＩＣ－３０３号古橋…己高山…（往路下山）
坂井久光氏，山下周道氏，河村　清氏の古稀登山です。 山頂で古稀の祝いを行います。（500円，記念行事代） マイカーで行きます。10月20日までに担当者に連絡して下さい。 交通費は各人にて清算願います。 地図　2万5千分の１　近江川合			

今月の集会

日　時　　10月11日（水）18：30
場　所　　厚生会館４Ｆ　大教室

企画運営委員会

日　時　　10月20日（金）18：30
場　所　　厚生会館４Ｆ　大教室

山声雪語

暑かった夏もやっと終わった。今年の暑さは史上最高だった。去年をさらに凌ぐものだったという。地球上の二酸化炭素の量は，化石燃料の大量燃焼によって確実に増大しており，温室効果により地球上の気温は緩やかに上昇している。データーによると，過去100年間で地球の平均気温は0.5℃上昇しているという。京都でも冬の寒さを感ずることが少なくなり，雪の降る日もめっきり減った。世界の気温が上昇して最も困ることは，北極や南極の氷が溶けだして，海水面が上昇することである。海沿いの低地では堤防の嵩上げなど，より一層の水害対策が必要となる。もっともそうなる前に地球にある化石燃料が枯渇してしまうかもしれないし，石油・石炭に代わるエネルギー（核融合など）が一般化されているかもしれない。

9月になって大雪山の初冠雪の報があり，北アルプスの3,000m級の山々にも初雪が降ったようである。早くも秋の装いに模様替えである。秋になれば近郊の山々も賑わってくる。特に京都は北・東・西を山に囲まれ，散策するコースにことかかない。山麓には神社・仏閣の名蹟が点在し，紅葉の時期には観光客で一杯になるが，一歩山域へ足をいれると静寂が支配している。道もよく踏まれて歩きやすい。しかし北山を歩いていると道に迷いやすいのは小生だけの経験ではないようである。道がありすぎて迷うのである。どの道も立派なので，ハイキングのコースと勘違いするのである。案内標識の少なさも分かりにくさの一因である。いずれにせよ北山を歩くときはよほど読図をしっかりする必要がある。

京都市が京都府山岳連盟等と協力して整備を続けている京都一周トレイルもいよいよ東山から北山へと移ってきた。9月と11月に北山西部コースのトレッキング会がある。京交山岳部からもO.Bの奥村氏がトレール委員長として，坂井氏が委員としてコースの整備に尽力しておられるし，トレッキング会には毎回多数の山岳部員がスタッフとして参加している。我々が慣れ親しんでいる北山が，新たな装いで市民の憩いの場として再登場する。今年の秋は清流と紅葉を求めて北山へ行くことにしよう。　　（H.7.9.15記　S.I）

【第２０４８回例会】

日本でただ一つの三角点を求めて

大　槻　雅　弘

毎年８月の下旬に，沢登例会を計画し実行していた。が，今年は常連メンバーの吉田君が，体調をくずし予定していた山行が出来なくなってしまった。ところが毎年，日程が合わずいつも行けなかった岡田さんが，今年は参加するからと。残念ながら吉田君は行けないが，せっかく岡田さんが一緒に登ろうというので，沢登りはやめそれに変わるこだわりの山行をすることにした。

選んだ山は，「一等三角点百名山」で日本でたゞ一つの，頭部が×印の三角点標石である黒法師岳へ登ることにした。メンバーは，いつも沢登りに参加していた古市，岡本さんは二つ返事でＯＫ，それに岡田さん，方山さんと小生５名になった。

８月４日

早朝，京都を出発し浜松で高速道路を出て，一路天竜川に沿って上った。まず，最初の目的地，秋葉の火祭りで有名な秋葉山へ登った。国定公園にも指定されており，全国の秋葉神社の総本宮であるところから「秋葉山本宮秋葉神社」と称されている。駐車場から20分程で866ｍある山頂の秋葉山本殿に着き参拝した。そのあと，神社の少し南に三角点があるのでそれを目指し，本殿の上社から下社へ通じる道を15分程下った。そこは三尺坊という所で，ここにも神社があって古い門をくぐり，雑木と竹の間を少し登って，一段小高くなった所に三角点をみつけた。

今回，最初の三角点三等723.6ｍにタッチした。写真を撮って，三尺坊へ下り少し早めの昼食を，大杉の下で摂って駐車場に戻った。

次に，秋葉山から北へ，天竜スーパー林道（昭和59年５月開通）を走り，竜頭山へドライブ登山した。竜頭山は，遠州地方の人達が多く登っているのか，山頂は電波塔等もあって整備され，ベンチやテーブルがあった。三角点は捜すまでもなく，ベンチの横に二等三角点1,351.6ｍがあった。今回二ツ目の三角点をタッチした後，近くの展望台から明日登る黒法師岳や，南アルプスの南部の山々，大無限山等奥深く重なり合う山の眺望を楽しみ山頂を後にした。

この後，樹齢1250余年の老杉２本が天然記念物に指定されていることや，徳川家康が参拝した事等で有名な山住神社へ立寄って水窪町へ入った。黒法師岳への入山許可を水窪営林署でもらい，警察へ登山届けをして，その夜は戸中川林道ゲート前でテントを張った。

（黒法師岳の報告は方山さんにお願いした）。

8月5日

黒　法　師　岳　(2,067.4m)

方　山　宗　子

今夜の宿は戸中川林道ゲート脇の作業小屋の前でテントを張ることになりました。アブや蚊の多い所で，岡本さんの機転で持参の蚊帳を張り，満天の星の下，粋で風流な晩餐会。アルコールの勢いよろしく山談義や，チョット書けないようなおかしい出来事を思い出して，お腹を抱えて笑いこけ，皆さん頼もしくて素敵でひと味違った想いの楽しいキャンプでした。

4：30分起床。モーニングコーヒーを楽しみ，テントを撤収して出発。日蔭沢林道分岐の壊れた伐採小屋の横で豪勢に鰻丼の朝食。

6：10分出発，至る所ガケ崩れの石がゴロゴロしている林道を，落石を気にしながら15分程歩くと，夏草に半分隠れて盤田山岳会の黒法師岳登山口の立て札がありました。その少し奥に入った所には，日照り続きでも枯れそうにない水場があって，このルートでは最後の水場のようです。

登山口から植林の中をジグザグに20分程登り尾根に乗って小休止，標高約1,250mの所です。道はこの後きつい登りになり，最近特に上昇気味の体形と重なって，あーしんど。ちょっと荷物を分担してもらって，楽をさせてもらった途端に元気が出ました。先頭に登っていると真近で鹿の鳴き声，ビクッとしながらも自然の中にいる素晴らしさをつくづく感じます。登山道は一部背丈をこすほど笹が茂っていますが，足元はしっかり踏まれています。1,786m標高点を過ぎると笹ヤブもなくなり，コメツガ，シラベの林になり，このルート二度目の急な登りが続き，一汗かくと丸盆岳と黒法師岳の稜線上のピークに飛び出しました。そこは，さわやかな風が吹き抜け汗がいっぺんに引きました。南東方に望める丸盆岳に見とれていると，リーダーは「時間があれば丸盆岳にも足を延ばすかも」。分岐から笹原の稜線を南に進むと，左前方に前黒法師岳，朝日岳，山仲間ではよく話題にあがり，機会があれば是非登りたいと思っている大無間岳や双峰の池口岳迄の素晴らしい眺望。おまけに富士山も望めて大感激。道は少し進むとすごいガレに出て，注意しながらガレの上縁を登り膝下程の笹ヤブを進むと待望の頂上でした。

展望はあまりなかったのですが，胸の内でヤッタ！日本で1つしかない×印の三角点をそっとタッチする。石屋が間違ったのか，いいえ目立つように知ってて間違ったのよと話が弾む。珍しい一等三角点標石です。

三角点を囲んで早い昼食，まずは乾杯。焼飯にスープいつもの事ながら皆さん手際が良く気持ちが良い。ここでも昨日の話が持ち上がり皆で大笑い。ナイショ！そのうちにリーダーが「せっかくここまで来たのだから丸盆岳に登らぬ手はない」と，やっぱり。

ガレから等高尾根の分岐点迄戻り，丸盆岳へ膝下程の笹が続く中を，ルートを拾いながらの最低鞍部迄下り，一登りすると目の前に素晴らしい景色が展開する丸盆岳に着きました。ここは黒法師岳と違って展望がよく，三角点のない山頂に「ここに三角点があってもいいのに」と皆で話

していました。

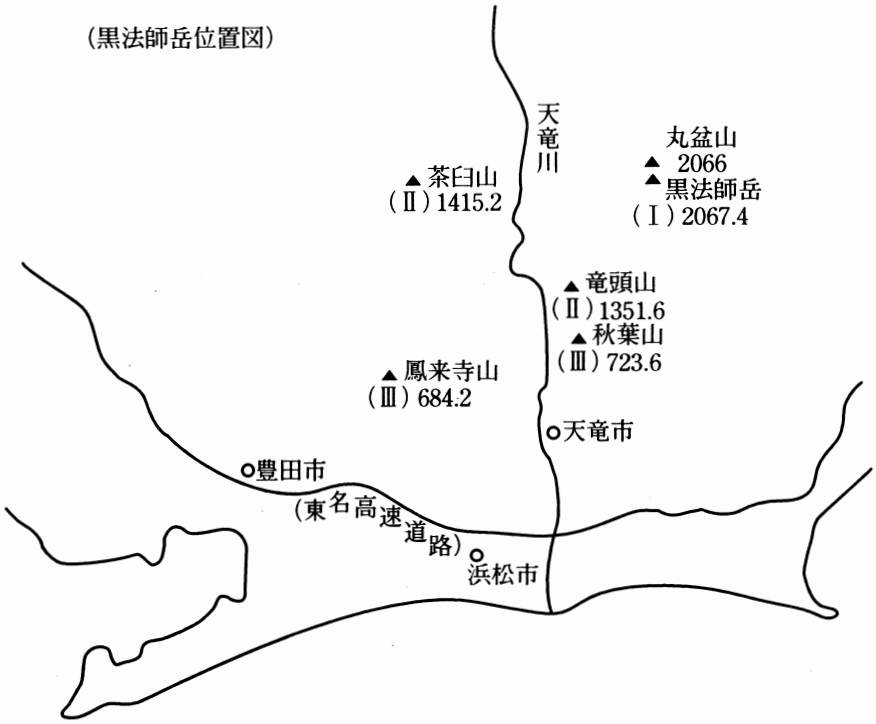
下りは登りのしんどさも忘れ，知らぬ間に最初の等高尾根の分岐につきました。そこには特製のサンドイッチが待っています。後は足取りも軽く登山口へ，登りよりもずーっと早い時間で降りることができました。

8月6日　（方山さんに代わって大槻が報告します）

昨夜は，黒法師岳を下山後，愛知県の最高峰である茶臼山へ登るべく，その山麓まで移動し，テントを張って一夜を明かした。茶臼山1,415.2ｍは，愛知県の最高峰とはいうものの，高度1,200ｍ当りからキャンプ場や，国民宿舎等があって，車道も山裾を廻り，ほとんどマイカー登山ともいうべき山である。

我々は，駐車場から遊歩道に導かれ，400ｍの距離で二等三角点の山頂にタッチした。山頂からの展望は360°文句なし，日本一の富士山を筆頭にぐるりと一周見渡せる。足元には，色とりどりのキャンプ場，なだらかな丘陵に遊ぶ牛と青い水をたゝえた池が点在していた。

下山後，茶臼山有料道路から，次の目的地出来山一等三角点を目指した。途中，車の燃料切れで少し遠廻りしたものの，出来山の麓へ着いたが思いもよらぬ林道のゲートでシャットアウトされた。地図で読む限り，簡単に登れると思っていたのに，思わぬゲートと，深いブッシュが夏草と共に山頂を覆っていた。皆んなの登高意欲は，真夏の真昼に，ブッシュにつっ込む気になれないと，ゲート近くの池の畔で昼食後，出来山をあきらめてこの近くで，帰洛ルートにあって，簡単に登れて有名な山はないか捜すことにした。地図を見て出た答は，仏法僧の鳴く山，東照宮で名の知られた鳳来寺山へ



と決定した。もう，皆んなは暑いこととて温泉にでもつかって早く帰りたいというのを，愛知国体の人工登攀会場を見学してから鳳来寺山へ向った。

鳳来寺の駐車場から，観光客に混って一緒に歩き出した。土産物屋の人は，20分で登れるという。それじゃすぐだ，と言うことでスタートしたが，何んの何んの，三角点を経由して車に戻るのに1時間30分も要した。（戻って土産物屋で氷を食べた所の若い兄チャンが言うには普通3時間コースであると。）でも，ブツブツ文句をいいながらも，Ⅲ，Ⅱ，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ等と鳳来寺山で今回山行最後の5つ目の三角点をタッチした。三角点は，上部盤石まで飛出しており，それに点の字が古い標石は「點」が殆どなのに「點」であったりして，黒法師岳の三角点といい，番外で登ったこの鳳来寺山の684.2m三角点といい，しめくくりの山としてまんざらでもなかった。

最後は，湯谷温泉につかり三日間の汗を流し帰洛した。

【参加者】　岡田茂久，大槻雅弘，古市昌造，岡本義弘，方山宗子

【コースタイム】

8月4日　京都6：00－12：00秋葉山－13：30竜頭山－17：00戸中川林道ゲート

8月5日　ゲート5：10－6：27登山口－6：43尾根－8：48尾根分岐－9：30黒法師岳 10：35－11：55丸盆岳－15：20登山口－17：30茶臼岳テント地

8月6日　テント7：36－7：55茶臼山－14：25鳳来寺山－16：25湯谷温泉17：00－21：30竹田

【第２０４９回例会】

甲斐駒ケ岳　Ⅰ　△ 2,965.6m

津田　実

久しく信州の山にご無沙汰していたが，今回，念願叶って南アの甲斐駒に登れることになった。私にとって，南アルプスは未知の世界，それだけに感慨もひとしお。

かつて世論を騒がせた南アルプス横断林道。自然破壊の象徴である問題の林道を車で通る。その心の矛盾を付近の風景に紛らわせ，北沢峠へ向かう。

でも，北山の林道建設の後のような荒々しい破壊の痕跡は表面的には見当たらない。これも反対運動の成果か？峠付近もバス停留所の標識とログハウス風の建物がなかったら，ただ，林のなかに道が一筋あるというだけの風景である。建設者の気配りが嬉しい。

数台のバスが同時に着くと忽ち喧噪が辺りを支配するものだが，流石に峻嶮な南アの山に挑む剛の者たち，何処かのハイカーとは大違い，静かなもので瞬間にしてその姿は山中に消失。

峠から山梨県側に少し下った長衛小屋キャンプ場にテントを張り，登山に不要なものはデポし，故 竹沢長衛翁のレリーフを左に送り仙水峠へ。今回は高建の若人たちが主役で，我らロートルの影は薄い。

長衛小屋の前の橋を渡り，谷に沿って上流方向へ，北沢を幾度か渡って行くと樹間に仙水小屋がみえる。京都から徹夜で戸台まで来たので休息に丁度よい歩行で，一本立てる。小屋の前の竹筒から迸しる清水は氷のような冷たさだった。

水流は小屋付近から伏水となって地下に没し，深い樹林の中をゆくと突然，左側に岩塊が累々と重なる所にでて吃驚仰天。その岩塊の間の踏跡を辿って前方のコルに登るとそこが仙水峠だった。

左前方に怪異な岩峰の摩利支天，右に栗沢山（●2,714ｍ）とその登路が見える，案内板の前で小休止。仙水峠（高度2,264ｍ：駒津峰2,752ｍ）約500ｍの急坂が待っている。

これから若者たちが先行，軟弱組は放ったらかし。登路は樹林のなかに，大小の岩と木の根が露出した急坂で，苦しい登りが続く。それでも後ろの栗沢山が段々低くなり，頂上と同じ高さまで登り，樹林はハイ松地帯に変わると，駒津峰はすぐだった。

ここは北沢峠からの登山道との合流点でもあり，さきほど仙水峠から見た摩利支天の岩峰はすぐ近くである。持参の1／20万図で周辺の山を確認する間もなく六万石の特異な岩を目指して岩場をくだると，甲斐駒ケ岳頂上直登コースと巻き道コースの分岐に会うが，我々は迷わず巻き道コースに入る。

岩稜を右に巻くと正面に摩利支天が，左に甲斐駒ケ岳頂上の祠が見える。ところが登路は岩と砂のザラ場で歩き易いのか，むやみに踏跡があり，登山者も自由に歩いている。

山頂は時間的に近郊の登山者が下山した後か，静寂そのもの。まず不動明王にお参りして，祠の裏側に回ると一等三角点の標石が厳然と天空を指していたが，何とその標石は黒石である。標石は御影石と聞いていたが，付近に立つ墓石と同色である。これには何か理由があるのだろう。

下りも若者たちが先行，晩飯の用意をしておくから，ごゆっくりと嬉しいお言葉に感謝して黒津峰で別れる。近くにおられた年配の登山者が「貴方がリーダーですか，皆さんいい方ですね」と声をかけて頂いたが，曖昧に返事して先行者の後を追う。

登りに体力を消耗してしまい，仙水峠までの降路は大変な難行苦行。登りと同じくらいの時間でやっと峠に着いた。仙水小屋で清水を頂戴，谷筋を歩いていると「まだか」との催促，幾ら急がされても「バテタ・カラダ」で速くは歩けない。同行者に励まされ，やっと長衛小屋前の橋に辿りつくと，国友さんが心配して迎えに来てくださっていた。

翌日の仙丈岳登山は参加不能。テントの中で青息吐息。次回から心せねば。

仙　丈　岳　II △ 3,032.7 m

井　戸　澄　夫

昨日の甲斐駒ケ岳は睡眠不足のせいか，皆さんバテ気味であったようだ。山自体が岩山で，真夏の太陽が容赦なく照りつけて，体力を消耗させたようだ。前夜 10：00 発で，仮眠時間 2 時間程度では，いくら軽荷の往復とはいえきつすぎたといえる。その反省から，2 日目の仙丈岳では，十分な睡眠をとり，充分な水を用意して登ることにした。

起床 4：00，出発 5：00 としたが，（長衛小屋に泊まっていた国友氏と平木氏は 4：00 少しすぎに出発した。計画では北沢峠から大平山荘を経由して谷をつめる予定であったが，北沢峠で間違って尾根道を登ってしまい，途中で気がついたが，5 合目から藪沢へ入るルートをとることに変更した。尾根の道は急勾配ではあったが，よく整備されており，南アルプスに特有の樹林帯の中の遊歩道であり，日射は適度にさえぎられ，涼しい風が常に吹いている。昨日の暑さがウソのようであり，急登で吹き出た汗が風を受けて蒸発し，体温を下げていくのが実感できる。

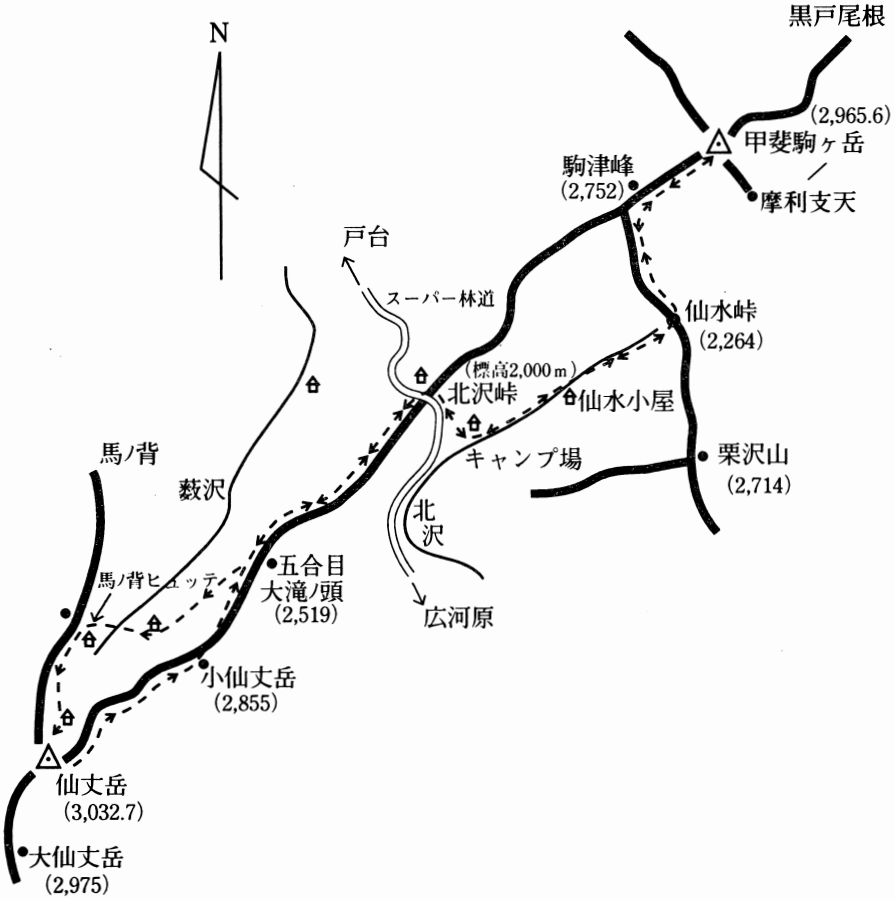
5 合目の大滝の頭までが尾根道で，そこから藪沢小屋までトラバースする。藪沢小屋は閉まっており，少しいけば馬ノ背ヒュッテがある。ここいらまでくると，樹林帯が灌（かん）木になり，斜面には高山植物の姿が目立つようになる。馬ノ背ヒュッテはまことに立派な建物であり，今度くるときには是非とも宿泊したい。ヒュッテから少し登りで馬ノ背の尾根に出る。一帯はハイマツと高山植物の世界である。視界が開け，目の前には朝日を受けて緑色に輝く仙丈のカールと山体がある。北方には昨日登った甲斐駒の白き雄姿が据わっている。西方は中央アルプスの木曽駒から南駒の山なみ，乗鞍から穂高の姿も見渡せる。伊那谷の牧歌的風景が目に優しい。夏の陽光はどこまでも明るい。山頂までは約 1 時間の登りである。花を愛（め）で山を愛（め）でながらの登高である。山頂からは北岳をはじめ，南アルプスの主峰が重量感をたたえて青いスカイラインをさえぎっている。

山頂付近で大休止，たっぷり昼寝をして，小仙丈からの尾根道を下った。小生を除く 5 人は皆若い。小生の息子は15歳である。

皆，これからが楽しみな若者達である。鼻歌を歌いながら快調に高度を下げて，思ったより早く北沢峠に着いた。テント場では，残留組の方々が，撤収の準備を終えて待っていてくれた。国友氏と平木氏は早く帰りたいということで，先発のバスに乗ったらしい。峠のバス乗り場では，臨時のバスが出ていて定時より 1 時間ほど早く戸台に着いた。戸台から車で昼神温泉へ行き，予約していた宿で汗を流して，冷たいビールを飲みながら，山の素晴らしさとしんどさを語り合った。堀田君と朝山君が山岳部に入部することになったのが朗報である。

“夏空（なつぞら）に光（ひかり）あふれて　夢（ゆめ）のごと
　　緑（みどり）まぶしき　仙丈（せんじょう）の山（やま）”　　澄　夫

概念図



（コースタイム）

8／19　甲斐駒ケ岳（1等 △2,965.6m）

北沢峠キャンプ場8：20…8：50仙丈小屋9：00…9：25仙丈峠9：40…10：20㊡10：30…11：10駒津峰11：30…13：10山頂14：15…14：50六万石15：10…15：25駒津峰15：45…16：30仙丈峠16：35…16：55仙丈小屋17：00…17：20キャンプ場

8／20　仙丈岳（2等 △3,032.7m）

キャンプ場5：05…5：20北沢峠5：45二合目5：55…6：20四合目6：35…7：05薮沢小屋7：20…7：45馬ノ背ヒュッテ8：00…8：30尾根（休）8：35…8：55仙丈避難小屋9：05…9：25仙丈岳10：00…10：30小仙丈岳12：20…12：35五合目12：50…13：15二合目13：20…13：40北沢峠キャンプ場

【参加者】　津田　実，宮川　勇 F1，田村正弘，竹田　勉，清水康裕，室谷和彦，多田義人，
国友　修，堀田　剛，朝山勝人，井戸澄夫 F1，平木氏（14名）

【第２０５０回例会】

岩登り講習会２　～ 御在所岳藤内壁 ～

山　岡　昭　弘

今回の例会は，担当者の都合により，日程および行先を変更して行った。

８月25日，曇り時々晴れ。午前７時前，松田氏の車で私の家前を出発して今回の例会は始まった。行先は，無謀（?）にも「御在所岳藤内壁」。今までは，大倉さん，吉田さんといった大先輩の方々といっしょにしか行ったことのない岩登りに，今回は，新人（?）２人で出かけることとなり，少々不安が混じった複雑な気持ちで車を走らせる。

国道１号線の朝の停滞に巻き込まれながらも，やっと近江土山へ……。

ここで，思わぬトラブル発生。

何気なく見上げた鈴鹿スカイライン掲示板に『閉鎖中』の赤い文字が……。

「え～っ。うそ～。」

「とりあえず，電話で確認してみよう。」と公衆電話を捜す。

電話番号を調べ，問い合わせてみると，

「滋賀県側で土砂崩れのため，ただいま，滋賀県側は通行止めです。開通の予定は，８月29日です。でも，あくまでも，これは予定ですから。」

とつれない返事。

「どうしよう。」

「せっかくここまで来たのだから。」

「じゃあ，四日市市経由で行こう。」

と，国道１号線をなおも直進することにする。時刻は，午前８時30分すぎであった。

東名阪自動車道を経由して，湯の山温泉，そして，登山口である蒼滝の駐車場に着いたのは午前10時30分をまわっていた。身仕度もそこそこに，藤内壁へと出発する。

途中，藤内小屋前で小休止をはさんで，テスト岩前に着いたのは午前11時30分。約１年ぶりの藤内。鈴鹿スカイライン不通のおかげで，ゲレンデは先客１パーティのみの貸し切り状態。ゆったりとした気持ちでトレーニングを始める。

昨年，一昨年の指導員検定会を思い出しながら，Ｐ７取り付き点でアンザイレンの後，確保に

関する説明，解説を……。その後，私がトップでＰ７を登る。う〜ん，この感触！Ｐ６取り付き点で登攀についての説明，解説と岩場の名称等の説明を行い，今度は松田氏がトップでＰ６を登る。いつもながら，豪快な登りっぷり！　Ｐ５，Ｐ４とコンテニュアスで進み，Ｐ３を私がトップでスタカットクライミング。Ｐ２下部で懸垂下降の説明，解説を行う。Ｐ２上部はクラックルートを私がトップでスタカットクライミング。この時点で，時計は午後４時30分少し前を指していたので，Ｐ１（櫓）は省略。指導員検定会合格のポイント（?）をたっぷりと松田氏に伝授して，本日の予定終了とした。

Ｐ２上部で小休止の後，登山道まで急降下。藤内小屋前にて再び小休止の後，蒼滝駐車場に戻ったのは午後６時前。着替えの後，京都へ向けて出発する。

帰りは少しリッチにと，四日市ＩＣから東名阪自動車道に入り清洲東ＩＣで降り，国道22号線を北上，一宮ＩＣから名神高速道路に入って京都東ＩＣへと向かうコースをとった。

京都東ＩＣを出たのは午後９時30分過ぎ。

松田さん！　トレーニングお付き合い，そして，往復の運転，たいへんお疲れさま!!

９月９日の指導員検定会に向けて，Let's go！

【参加者】　松田誠二，山岡昭弘

【第２０５１回例会】

三 郎 ケ 岳 （三浦前管理者追悼登山）

奥 村 弘 信

早いもので，ミーサン（私は三浦管理者というよりこう呼ばしてもらう）が急逝してからもう１年が経った。一周忌の今年に，私だけの追悼として，17年前一緒に登ったこの山に再び登ろうと企画を提出したところ，山岳部としての追悼登山の山となった。なぜミーサンの追悼登山がこの山なのかと不審に思われるが，別に深い訳や因縁はなく，上記のような次第と，ミーサンがかつて登った山，近くの山でなるべく大勢が参加出来る山として取り上げられた訳である。

９時，壬生に集合して四台の大型ワゴン車に都合よく分乗出来た。国道９号の高速道を走って千代川の月読橋を渡り，千歳町集落北端の道路拡幅された所に駐車する。以前登った道がどの道だったかは記憶がはっきりしないので分からず，最初は駐車地よりやや南にある川沿いの地図の道をとるつもりでいた。ところが在所の人に確かめると，集落を抜ける斜めの道を行けば登れるということであったから，この教えに従うことにした。

出発してさらに地元の人にも確かめ，農道終点手前の山道に入る。やがて道は谷の左岸に沿って登って行くが，辺りの様子から，どうもこの道は歩かれていない。登るにつれどうにか辿れた道も谷のツメ近くなって消えてしまい，とうとう急斜面のヤブ漕ぎを強いられてしまった。しかしこの谷と山頂の位置が分かっているから迷うことはなく，以前もヤブを漕いだのだからと，稜線目指して登って行った。赤松の混じる雑木のヤブはこの時期なら風が通らず暑さも蒸せて参るのだが，今日は風が通って有り難かった。稜線に着いても，あると思っていた道はなく，またヤブを漕ぐ。しかし勾配は緩くなったし，ここもいい風が吹き抜けて楽なヤブ漕ぎであった。

三郎ケ岳の山頂は昔と変わってすっかり木々に覆われ，少し離れた伐採地の展望もなくなっていた。三角点を真ん中にして輪を描くように一同が取り囲む。周囲の木に「三浦貞義前管理者一周忌追悼登山」と書かれた横断幕と，ミーサンが描いた山のスケッチや電車の絵の数々をコピーした二枚繋ぎのものを紐に吊り下げてL字形に張り巡らし，山での遺影四枚をその下に並べる。こうして山頂は追悼登山らしいお膳立てが調って，常の様子とは異なった雰囲気がただよう。井戸部長の追悼の挨拶があってから，志半ば無念の思いで亡くなったミーサンの面影を偲んで黙祷を捧げた。

担ぎ上げたソーメンと缶ビールに氷を入れて冷やし，今日のささやかなお供養とする。晩年は仕事が忙しくて山の数が減ったミーサンも，新年会だけは努めて出席し，「儂は山岳部の宴会要員や」と言っていたから，この後は遠慮なく何時ものような昼食風景となった。そしてミーサンの思い出話などを一人ひとり語り，意外な一面も知らされたりして，一層の懐かしさを覚えた。ミーサンは久し振りに就任した局生え抜きの管理者として，また人柄の良さと相俟って期待されていただけに残念の思いが強く，改めて冥福を祈らずにはおられなかった。

山頂での1時間40分にわたる追悼の宴を終わり，下山は南の稜線を下る。以前もここは歩いていないので，果たして道がどうか不安だったが，意外にハッキリといい道が続いていて，これが地図にある破線の道であった。なぜ地元の人がこの道を知らなかったのか，下って来て不思議に思った。

駐車場へ戻って部長よりお礼の挨拶があり，今日の追悼登山は終る。ふと路傍のパイプ柵に触れると，日当たりが良かったにもかかわらず冷たく，秋の気配をこんなところで知らされた。

終わりに，写真や横断幕の作成とソーメン作り，それに缶ビール等のボッカにお世話をかけた諸君に深く感謝しております。

平成7年8月29日（日）

【コースタイム】

壬生 9.18 ➡ 亀岡市千歳町 10.06 ～ 10.27 ➡ 三郎ケ岳Ⅲ△613.7m 12.30 ～ 14.10 ➡ 亀岡市千歳町 15.10 ～ 15.25 ➡ 壬生 16.15

【参加者】 伊藤，鷲見，鷲見寿，津田，渡辺F1，古市，石田弘，国友，岡田，大槻，大倉，岡本義，伊豆蔵F1，方山，沢井，竹田，森本，井戸，奥村，他2（以上23名）

【第２０５２回例会】

岩登り講習会３　～御在所岳藤内壁～

山　岡　昭　弘

２週続けての講習会。少しハードかなと思いつつ，今日は，西尾氏にもお願いして，松田氏と３人で，本番に似た形でのトレーニングをと，御在所岳を目指す。

９月２日，晴れ。午前６時30分，京セラ本社前を出発する。鈴鹿スカイラインも予定通り８月29日に開通しており，午前８時20分に蒼滝駐車場に到着する。今日は先客が何パーティーか……。仕度を整えて，藤内壁へと出発する。

途中，藤内小屋の前では，「愛宕山岳会」の方々が，今年指導員検定を受ける新人２人を前に猛特訓中。情報交換の後，「お先に！」と藤内壁を目指す。

テスト岩前には午前10時前に到着。西尾氏と松田氏とにアンザイレンをしてもらい，西尾氏を生徒役にトレーニングを開始する。

まずは，前回と同様に，Ｐ７取り付きにての確保のおさらいから始め，松田氏をトップにクライミング。Ｐ６取り付きでは登攀についてのおさらいの後，再び，松田氏をトップにクライミング。Ｐ６の頭で，下方より聞き慣れた声が……。「亀岡山の会」の方々も特訓に来られていたのだ。

Ｐ５，Ｐ４，Ｐ３とコンテニュアスで進み，Ｐ２下部で昼食をとっていると，先程の「亀岡山の会」の方々が追いつかれ，Ｐ２下部で確保の実技講習を始められた。

「ノウハウを盗め！」

とばかりに，しばらく，実技講習を見学させてもらう。

「確保のポイントは？」

「支点の強度！」

「支点と確保者とザイルが引かれる方向が一直線になるように……！」

「セルフビレーのザイルの長さは，長すぎず，短かすぎず，ほどほどに！

「セルフビレーのザイルは，いつも，少し張り気味に……！」

「……！」

じゅうぶんエキスを吸収して，私たちも，同じ場所で，確保の実技講習を行うことにする。

「……？！」

Ｐ２上部は左側のルートを松田氏にクライミングしてもらい，Ｐ２上部の鞍部に到着したのは午後５時前。今日はここでタイムオーバー。Ｐ１（櫓）はまたもおあずけとなってしまった。

小休止の後，暗くならない間に急いで下山する。途中，藤内小屋前では，「愛宕山岳会」と「亀岡山の会」の方々がそれぞれ特訓中！！　聞けば，今夜は小屋に泊まるとのこと。１週間後の指導員検定会での再会を約束して，日帰り組の私たちは先を急ぐことにする。

蒼滝駐車場には午後6時30分すぎに到着。着替えの後，今日は，鈴鹿スカイラインを経由して京都へと向かう。途中，夕食休憩をはさんで，京都東ＩＣを出たのは午後10時前であった。

忙しいなか，夜遅くまでおつき合いして下さった西尾さん，ありがとうございました。

２週続けてトレーニング，松田さん，お疲れさまでした。指導員検定会でのご健闘をお祈りいたします。

【参加者】　西尾直樹，松田誠二，山岡昭弘

岩登り講習会３（御在所岳藤内壁）に参加して

西　尾　直　樹

久し振りの山行であった。夏山合宿に参加もできず，夏の最中に急性虫垂炎で入院するという，いつもと違う夏が終わろうとしていた。体力に自信もなく，岩の技術も心もとないとはいえ，少しは検定受験者の松田君の役に立つことがあればよいと思いつつ，夏を少しだけでも取り戻せるかもしれないと期待もしていた。

岩場までは比較的快調に歩くことができた。岩場では，府岳連の他の仲間や，他の団体の人が思い思いに岩に取り組んでいる。ザイル扱いの不慣れや，支点の選択を難しく思うのは相変わらずであったが，松田君の説明を聞きながら，「今後の努力に期待する」との保留付きであった自分の検定を思い出しなつかしくもあった。思いのほか楽な気分で登れたのもよかったし，いつきても前尾根からの高度差を感じさせる眺望の良さは素晴らしかった。早く「保留」がはずれるようにならなくてはと思いつつ，楽しく一日を過ごしました。

【個人山行】

小川山　屋根岩　　天気晴朗

平成７年７月28～31日　　朽手（クチデ）　登（ノボル）　57歳

今回は久し振りの山行で体力気力共に不安でしたが，広沢さんから無理ならばテントキーパーをすればよいのでは……で行ってきましたが，自信をなくした報告です。

参加者５人，石崎氏の自家用で名神東インターから中央自動車道長坂インター経由で回り目平へ早朝に到着。即仮眠の後朝食をすませて広沢，渡辺（九条営業所），私の３人は尾根岩３峰へ，石崎，平沢両氏は（共に京・岳人クラブ）２峰へ。

我々は南稜神奈川ルートへ取付く，もちろんリードは広沢さん，クライミングをやりだして間のない渡辺さんよくやりますね!!私は毎度のことながら初めての所はグレート評価以上の難しさを感じて四苦八苦トレーニングをなまけていた筋肉痛に喜びながら大汗をかいて何ピッチか？を登ってピークに到着。狭まーい頂に立ってバンザーイで四方を眺めると緑色の大波小波の中に立つ岩峰群。

ヤッホーの掛け声に隣りを見ると登攀終了のお二人がザイルを繰ってます。ウーン絵になるなあーですがカメラは？

このような岩峰は初めての場合，下山ルート探しに苦労しますし危険でもあります。広沢さんも初めてと思いますが，上手にビレー点を見つけます。ホント懸垂下降は怖いもんです…，それも何ピッチも続くとなおさらです。

昼食後は側壁の人気ルート，渡辺さんと交替でのビレイヤー，ついでに一回ぐらいとセカンドトライを試みるも手に負えませんのでＡＩ方式にチェンジ，それでも手に汗をかき関節はギシギシです。ウーンここは私にとってはアブミの練習場だ!!。

この廻り目平も夏場はまったくのオートキャンプ場，人とテントと車が山盛り，石崎さんによれば今年はまだ良い方で昨年は車の出入りが自由にならなかった!!そうです。

２日目は筋肉痛で疲れたー!!今日は休むーで森林浴をしつつの朝寝!!　これは楽です病みつきになりそう，しかし哀れなる習性抜けきらず？…で昼前になるとじっとしてられない。皆さん４峰へ行くと話をしておられたが昨日の隣りだと一人合点，テント地から見ると行儀よく５つ並んだ屋根岩…それが近くで探すとなかなか現場が分からない。出発してから１時間以上かかってやっと石崎氏と渡辺氏に合流。よくきた!!さあ登れと言われてもその気になれません…いやホント。

５峰を登りに行ってた広沢・平沢コンビは戻ってきてイヤーヨカッタぞー!!，話を聞きながら平沢さんの手足の勲章を見ればなっとく，ヨカッタネー。

皆さんここで登ってますか？我々は次の目的があるのでと早々に移動してしまう。ウーン元気だねーと見送った３人はセットされたトップロープ方式でフリーを楽しみました…が今回私は難しさばかりが先にたつでした。

誰が言ったのか（もう帰えろうか？）の声を待ってました…とテントに戻り夕食の仕度中に広沢さんは戻ってるかー？とプロクライマーのお二人が立寄られる。名前は南裏健康氏と保科雅則氏でスーパーＡ級の有名人だそうです。（この地の岩場へはお客をガイドされて来られたそうです）

まもなく広沢・平沢の二人も戻ってこられてヤーヤーの挨拶（なんだ南裏氏は京都岳人Ｃにも所属してられるのか!!）で一緒にやりましようの宴は盛大でプロの世界の話は珍しくて楽しいものでしたが口を出す場面がありません…のでエート南裏さんガイドされるのは…と素人の興味本位であれこれ聞き出しまして…ご注文の用件がございましたら京都岳人クラブへ連絡下さいとの

事…失礼しました。

3日目，昨晩のAチャージが祟ったのか朝から胃痛で薬を呑んでも収まらず又々本日も行動中止となり情けないしだいです。平沢さんから最終日は二人でガンバレ熊さんへ行こうと話をしてたのに残念です。次回はも少し体調を整えてと考えつつ恥ずかしながらの報告です。

明るい報告は洛西営業所に全天候のコンパネ人工壁が完成してます。壁面の可動が可能で4段回に前傾します。私も一度さわってきました（製作は洛西営業所の山岳部員の皆様と岩登りの指導者の皆様です)。我が山岳部の皆様ももうご存知の方もおられると思いますが，知ってるだけではなくぜひ一度さわって下さい。ルールを守れば安全で楽しいスポーツです。くわしくは洛西営業所山岳部員の方へ連絡して下さい。以上報告終りです。

東北地方の一等三角点の山旅

O.B　坂　井　久　光

8月12日山崎大造氏と乗鞍岳に登り，14日に帰って21日から山形歳之氏と東北の山旅に出掛け9月13日久しぶりに涼しい京に戻った。

21日は北陸道を走り米山S・Aで泊り，23日二王子山1,421m 2等△を登り，温海道の駅で一泊。24日鳥海山の一等三角点七高山2,230mに登り駐車場で一泊。25日田代岳1,178,m 1△に登頂。鷹巣道の駅で泊。26日中岳1,024m 1△に登り阿比高原で泊。27日雨の為，トピア温泉で入浴し，昔泊った荒屋新町駅近くの村上旅館で一泊。28日黒森林道の峠手前の分岐より点の記の切開を登り高倉山1,051m 1△へ。以前登った時は残雪期の為標石が見えなかったが今回は周辺の木が切倒され荒い切開が作られていた。下山後綿帽子温泉で入浴して生出キャンプ場で泊。29日十和田湖畔を走り，岩手県の新郷村に入り三岳1,159m 1△に登頂。下山後キリストとその弟の墓を拝観。野沢温泉で汗を流し発荷キャンプ場で泊。30日矢捨山564mに西側の林道をつめて登り，釜臥山スキー場で一泊。31日釜臥山を往復十符海水浴場で泊。

9月1日浅虫温泉の月光の滝の神社の登山口から沢筋を東岳684m 1△に登り下山後浅虫温泉で入浴後馬の神山549mへ林道を走って登り山腹で一泊。2日大倉山677m登頂後不老不死温泉に入浴後，灯台キャンプ場で一泊。3日鳴川岳から丸屋形山718m 1△へ登り，又温泉で一浴後，蟹田キャンプ場で泊。今回才沼林道をつめるコースをとった。青森銀行の道標あり。4日十三湖の相内から桂川を北上し，四滝林道を上って，広場から指導柱あり。谷川を渡渉してブル道や手入れされた道を登って登頂。根曲竹の切開中に標石四滝山1△699mを見た。下山後屏風山の一等△西高山55mを神社参道を登って達した。その夜は行合岬キャンプ場（深浦町）で泊。5日母沢林道に入り桝形山をめざしたが，貨車が転倒しており，バックして奥入瀬川のオサナメ沢林道を入り登頂を試みたが藪深く山形氏は断念。6日，貨車撤退後の母沢林道をつめ，点の記の刈

分を登って820mの1△に再度登った。前回あった1本の白樺は切倒されてなくなっていた。附近一帯には白樺なし，下山後黄金崎の不老不死辺に行き入浴休憩，その後八幡平ロードの入口の駐車場で泊。7日八幡平1,614m 2等△に登り，下山後男鹿半島の本山1△を登る為，自衛隊に行ったが，道路工事の為，車が行けず許可がなかった。その夜は天王パークで泊。5日日本国555m 2等△に再登して，長井市の長井谷林道をつめ，三体山麓で泊。9日藪道を登り5時間半で1,293m 1△に再登。下山に4時間を要した。

その夜も山麓泊。10日金沢の深谷温泉（伯母経営）で入浴して昼食後輪島に行き泊。その夜花火大会があり壮観。11日風強く，舳倉島汽船欠航。能登半島一周の観光後一泊。12日舳倉島の灯台下に三等標石の一等△を確認。島内を観光後輪島で泊。13日北陸路をひた走りして，草津のバス停で下車，帰宅。3週間余りの山旅を終えて久しぶり我家に帰った。

つらい事も楽しい事も相反する山旅だった。

白馬岳から朝日岳より日本海親不知へ

錦林営業所　竹 村 芳 廣

8月25日　大阪駅発21時36分「ちくま」に乗るが，夏休み最後の週末なのでかなり混雑しており，三人ばらばらに座る。名古屋に23時30分着，ホームには乗客が一杯いて，汽車に乗れても通路に座っている人が沢山いる。今までの山行きの中で，これ程乗客が多いのは初めてだ。

今回は錦林営業所の早川誠一さんと，石野秀秋さんの三人での山行きとなった。白馬岳は，今年7月末に家族で，栂池自然園より白馬岳から猿倉への下山に続き，二回目の白馬となる。

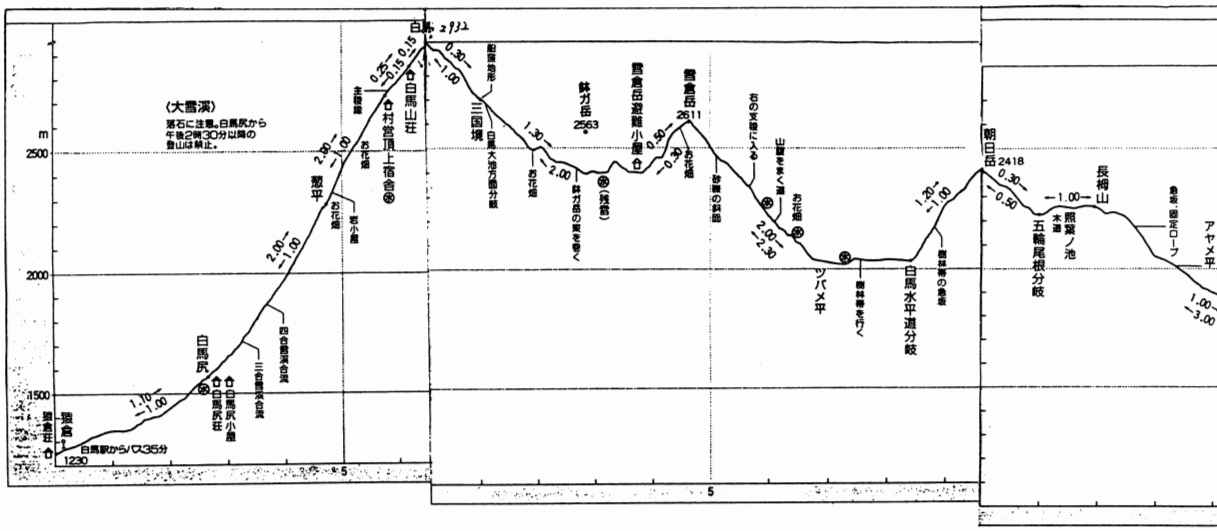
8月26日　猿倉に6時15分に着く，まず腹ごしらえをして7時，いよいよ出発。白馬尻へ着くまでに二人と僕の距離があく一方だ。荷物の重たさと睡眠不足が祟って早くもダウンだ。白馬尻で僕の荷物を，早川さんと石野さんとに振り分けて貰う。前回家族で来たときの大雪渓は，7月半ばの集中豪雨で下半身が土砂で埋まり，雪渓は上部のみであった。今回は大雪渓が崩壊していて，もう秋道のルートに変わっていた。13時50分やっとの思いで今日泊まる白馬岳山荘に着く。夕食を終わると直ぐに寝床に入ってしまった。

8月27日　6時15分白馬岳山荘を出る。白馬岳2,932mの頂上に15分程で着く。三国境へ向かうやや下りでガレバになっている。三国境では，ほとんどの人が白馬大池の方へと行く。朝日岳へ行くのは，我々だけのようだ。鉢ガ岳を横巻きにして一路雪倉岳へ向かう。途中，雪倉岳非難小屋を通り，鞍部から一気に雪鞍岳に登る。一時間ぐらいで雪鞍2,611mの頂上に着く。頂上からは，これから行く朝日岳が見えるが，まだまだ遠い。その左稜線に今日泊まる朝日小屋がポツリと小さく見えている。きついガレバの下りが続き，樹林帯の中を下っていく。やがて沢を渡ると，開けた草地に出る。木道が整備されており，この先，水平道の分岐まで木道は続く。この

辺りは高山植物がたくさん見られる。やがて朝日岳の直登と，朝日小屋への分岐に出る。取り敢えず，朝日小屋へ向かう。朝日岳を横巻きにしながら，高度を上げて行く。朝日小屋への途中，谷川が流れていて，ここでタオルを谷川に浸け，汗ばんだ体を拭いて，小屋に入ることにした。朝日小屋着，14時15分。白馬岳を，僕らよりも一足先に出た人が出迎えてくれた。今日の朝日小屋の客は，先に着いた人と合わせて４人だけだ。

８月28日　５時起床。外を見ると雨で，５時30分に朝食を済ませたが，まだ外は雨だ。小屋を出るのを見合わした。昨日僕らを出迎えてくれた人は，小川温泉より泊へと出て行った。（通年では，北又小屋までタクシーを呼ぶことが出来るが，今年は，７月半ばの集中豪雨によって小川温泉途中で林道が土砂で埋まり車が入れないため北又小屋（営業中止中）より３時間30分もかけて，徒歩で小川温泉まで出なければならない。）９時になっても風雨が強いので，今日一日ここで停滞する事にした。15時半頃今日最初の客が来た。なな，何と，この風雨の中，僕達が行こうとしていた，栂海新道から単独で上って来た。この風雨で栂海山荘を出るのを思案していて，７時に山荘を出て来たと言う。

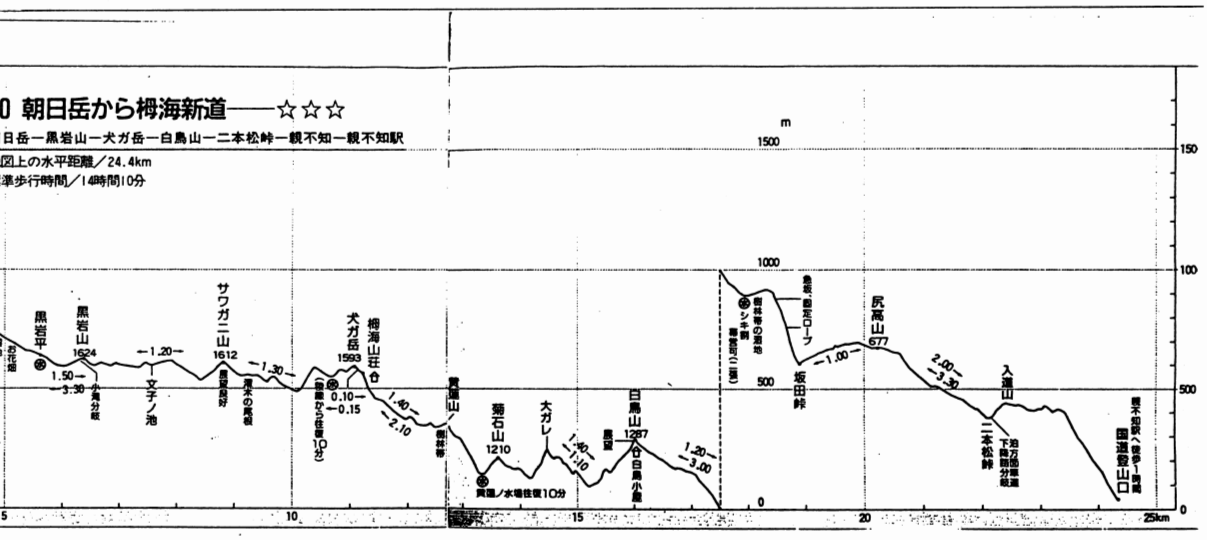
８月29日　６時30分，晴れ。昨日の風雨が嘘のようだ。まず朝日岳への登り。１時間かかって朝日岳2,418ｍの頂上へ立つ。（７時25分）これから行く長栂山のその下に，湿地帯が見える。険しいガレバを30分程下ると，五輪尾根分岐へ着く。右へ下って行けば蓮華温泉へ行く。いよいよ栂海新道が始まる。分岐の岩に大きく赤いペンキで，栂海新道と書いてあるのが印象的だ。８時40分長栂山2,267ｍを越える。急な下り坂に固定ロープが掛かっていて，立ち木につかまりながら下る。アヤメ平の湿地帯を過ぎてお花畑のある黒岩平の水場で水を補給する。黒岩山1,624ｍに11時着。長栂山と黒岩山の標高差を見ると，約650ｍも下っている。ここからサワガニ山の間，かなりアップダウンが多いやや下りに入る。12時30分サワガニ山1,612ｍを越え，13



時50分やっと犬ガ岳1,593m頂きに立つ。時間があれば，白鳥小屋へ約3時間30分かけて，足を延ばすつもりでいたが，体がいうことを聞かないので，白鳥小屋へは明日に回す事にした。14時栂海山荘に着く。（今回のコースは，北アルプスの中では一番新しいコースで，朝日岳から日本海の親不知まで，標高差2,400m全長27kmの尾根を踏破する道を開いたのは，地元青海町の「さわがに山岳会」のメンバーで，11年の歳月を要している。コースの半ば犬ガ岳の頂上直下に山岳会の無人の栂海山荘が建てられている。）15時20分頃，親不知の方から単独で登って来た人がいる。65歳で，立山の仙人池ヒュッテに勤めていると言う。建物は二部屋あり，一部屋を登って来た人に使って貰う事にした。16時過ぎちょっと早いが夕食にすることにした。

登って来た人と4人で，一日の苦労話をしている時，ふと窓越しに外を見ると人影がするので，目を凝らして見るとやっぱり登山者で，時計を見ると18時35分。こんな時間にどうしたのかと思う。「どこから来た」と聞くと「天狗から来た」と言う。登って来た人と同じ部屋に入ってもらう事にした。最初は，ピンと来なかったが，地図を開いて見ると，白馬岳と唐松岳の間に天狗山荘があるのに気づく。僕らが白馬岳山荘を出て，一泊二日かかってここまで来たのにあの人は，一日でここまで来たことになる。山荘からは，日本海に浮かぶ漁火が奇麗だった。

8月30日　3時30分起床，朝食をとり身仕度をして，5時栂海山荘を後にする。樹林帯の中の急な下りが約1時間続く，黄蓮山を越えて菊石山との鞍部にある，黄蓮ノ水場で水を補給する。6時30分。しばらく行くとブナ林の中を登って，6時50分菊石山1,210mに着く。正面にはこれから行く稜線と大きな白鳥山に小屋が見える。道は，一旦下りになり，今度は木の幹につかまりながらの急登で，7時20分やっと下駒山に着く。又下って又々急登を過ぎて，8時30分白鳥山山頂に出る。（山頂には青海町の無人小屋が92年に新設されている。）白鳥山からの下りも，急坂で慎重に下る。途中，シキ割りと呼ばれる水場を過ぎる。（9時50分）狭い尾根上の急な下り



になる，ここを下った所が，坂田峠（11時）辺りで，日本海側から登って来た人と離合する。かなり年配の人だ。11時50分尻高山677ｍを過ぎ，12時45分日本松峠付近で，一旦舗装道路を渡り又登山道へ入る。入道山への登りは短いが，疲れた体にはきつく感じる。始めはワンピッチを１時間で来たのが，今はもうワンピッチ30分も行けなくなっている。13時入道山を過ぎた辺りで正面には日本海が見えて来た。又国道を走るトラックの音も聞こえて来たが，まだ下っている。やがて杉林の中を下ると，国道八号線に出る。やっと親不知へ着いた。14時三人で握手を交わして今までの健闘を称えあった。登山口には大きく栂海新道の看板がかかっている。又その下に小さく（風呂付き親不知駅までの送迎1,000円観光ホテル）の張紙に誘われて，国道の向かいの観光ホテルで五日間の汗を流した。

【参加者】　錦林営業所　　早川誠一，石野秀秋，竹村芳廣

【個人山行】

霊仙山 III △750.8ｍ & 魚ノ子山 III △552.4ｍ

津田　　実

初めて比良山系に入ったのは，確か，65年秋ごろ八幡谷ではなかったか。以来，北は蛇谷カ峰から権現山までの山は何回となく登ったが，どういうことか霊仙山だけが抜けていた。それは，比良山系の離れ孤島の関係かも。数年前に三橋さんと原田さんとで３人で平からアラキ峠・権現山を経て霊仙山を目指したが，権現山からの下りで霊仙山の取付点を見落として，栗原集落へ出てしまった苦い記憶がある。

先日，三橋さん宅を訪問した際，「明日公休だから何処かへ行こう」と言う話から霊仙山が決まり，其処で，「霊仙だけでは勿体ないから国境シリーズの魚ノ子山へ案内するわ」と言う訳で，湖西路を北へ向かう。

和迩から途中峠に抜ける街道を西へ，栗原集落へは妙道会の道標を頼りに右折する。集落の外れに比良山登山口の道標があり，ＮＴＴの無線中継所と権現山への登山道の分岐点に車を駐め，舗装道路をゆくと間もなく中継所のゲートにつく。右側の尾根の取付きの雑木に「霊仙山」と書かれた小さな木札が下がっていた。

草に覆われた溝を跨ぎ，踏みしめられた小道を歩きだす。左側は杉の植林帯で，右側は雑木が茂って琵琶湖の眺望は望めないが，杉林の手入れのためか登山道はしっかりしている。

登るに従って斜度が増してくる。左の杉林に雑木が交じりだすと更に斜度はきつくなってくる

が，前方の空が明るく見えると，少し開けた台地の中央に目指す三角点標石があった。

しかし，何者の仕業か角が欠けている。何のために此のようなことをするのか，そばの「三角点を大切に」の標識が空しくみえる。

展望は西に天ガ森と，それに続く山系が長く横たわり，遠く愛宕山。北には蓬莱山，東は琵琶湖を隔てて鈴鹿山脈の山々が霞んで見える。

三角点付近は例に依って登頂記念の木札が吊されているが，なかに折り紙の金魚が下がっているのには驚いた。滞頂暫時，次なる魚ノ子山目指して下山。

栗原から途中峠を越えて，峠下に駐車，地図上371地点から伐採された急斜面を匍い登り国境稜線に達し小径を南下，小さなコルを三つほど越すと，魚ノ子山三角点に到着する。此処で遅い昼食にする。以前，奥村さんと来た時より径は若干，自然に帰りつつあるようだ。

下山は地図の破線を辿る心算で降りると林道が破線を横切り，林道造成後の土砂や伐採された材木が捨てられていて，進行不能。仕方なく遠回り覚悟で林道を辿り，若狭街道にでた。

帰宅後，記録を調べると前回の登山は92年7月12日だった。

95年9月6日　天候　薄曇り　　同行者　三橋さん

コース・タイム　　省略

例 会 報 告

例会 No.	目　的　地	月　日	天候	担 当 者	参　加　者	記　　事
2048	（変更） 黒法師岳	8月4日 ～6日		大槻　雅弘	岡田，古市， 岡本義，方山	（別稿詳報）
2049	甲斐駒ケ岳 仙丈岳	8月19日 ～21日		井戸　澄夫	津田，宮川， 田村正，竹田， 清水康，室谷， 多田，国友， 堀田，朝山， その他3名	（別稿詳報）
2050	岩登り講習会 御在所岳藤内壁	8月19日		山岡　昭弘	松田　誠二	（別稿詳報）
2051	三郎ケ岳	8月27日		井戸　澄夫	伊藤，鷲見， 鷲見寿，津田，石田弘，国友，岡田， 大槻，大倉，渡辺，古市，岡本義， 伊豆蔵，方山，沢井，竹田，森本， 奥村，他4名	（別稿詳報）
2052	岩登り講習会 御在所岳藤内壁	9月2日 ～3日		山岡　昭弘	西尾　直樹 松田　誠二	（別稿詳報）

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
小川山 屋根岩	7月28日 ～31日		台川　敦美 他4名	(別稿詳報)
東北地方の 一等三角点の山旅	8月21日 ～9月13日		坂井　久光	(別稿詳報)
白馬岳から 朝日岳より 日本海親不知へ	8月25日 ～30日		竹村　芳廣 他2名	(別稿詳報)
霊仙山と魚ノ子山	9月6日		津田　実	(別稿詳報)
△525m 点名　出合 △646.5m 点名　南名田	9月9日	曇り	大槻　雅弘 他3名	1／5万図　小浜の中にある三角点2山を登ってきた。地元の古老は△525mは「熊谷」「出合ドンタン」と山名を教えてもらった。生まれて76年山村から出たことがないという老人は久し振り人に逢ったのか互いに話がはずんだ。 △646.5mは「二の谷」と教えてもらったが，どうも山名というより，登る為の登路を言っているように思えた。 長い山行経験で初めて蜂の洗礼を受け，帰宅後医者へ行き3日間大変であった。

雑　　報

△△△　9月の集会

日　　時　　9月11日（月）19：00～20：40

場　　所　　厚生会館　4Ｆ　大教室

出 席 者　　（ＯＢ）　奥村，津田，渡辺，三橋

（本局）　井戸，大槻，岡田，井上

（梅津）　吉田　（竹田）　大倉　　以上10名

内　　容　　例会報告ほか

△△△　8月の企画運営委員会

日　　時　　8月22日（火）18：30～

場　　所　　厚生会館　4Ｆ　大教室

出 席 者　　井戸，奥村，山岡，馬淵

△△△　他山岳会の会報（受贈分）

6 月 号　　近畿山行

7 月 号　　わっぱ

8 月 号　　わっぱ，近畿山行

9 月 号　　趣味の登山，木雞，一等三角点，京都山岳，近畿山行，山友，北山，わっぱ

△△△　新入部員

・氏　　名　　堀　田　　剛

生年月日　　昭和39年8月12日　　血液型　A型

住　　所　　〒636－03　奈良県磯城郡田原本町西八尾385－14

Ｔ Ｅ Ｌ　　07443－2－8205

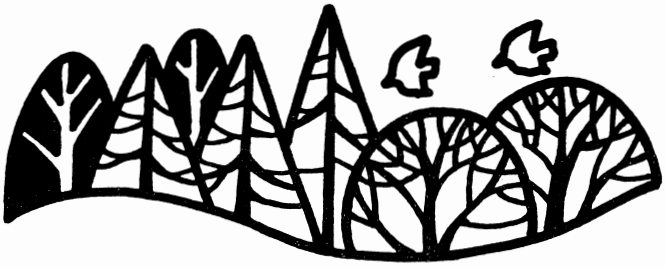
・氏　　名　　朝　山　勝　人

生年月日　　昭和42年10月21日　　血液型　A型

住　　所　　〒570　大阪府守口市大日町4丁目46－1

Ｔ Ｅ Ｌ　　06－905－7340

△△△　退　　部　　本局　　池　田　茂　生



家庭用品
衛生用品 } 総合卸商社

日華商事株式会社

本　店　京都市南区上鳥羽大物町13番地
〒601　電話（075）672－6101㈹
FAX（075）661－7332

八坂運送有限会社

京都市伏見区醍醐新町裏町24番地の4
TEL（075）571－1108

帆　布・濾　布
テント・シート
雨　合　羽

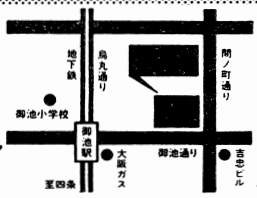
木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL　801－5331（代）
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL　321－0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



ビッグホリイケ

営業時間　AM10:00～PM9:00〈年中無休〉
京都市中京区御池通高倉西入（千代田生命京都御池ビル2F）
☎(075)222-0363

葦の髄から天井を覗く…⑨

小社の入社試験でチェコの作家カフカの「変身」を出題したが正解者は一人もなし。世界文学のスタンダードナンバーの筈なのに淋しい限りだ。メンデル、スメタナ、ドヴォルザークは日本人に親しく、ロボットはチェコ語だ。この度京都産業大学出版会（事務局は小社にある）からチェコ語ー日本語辞典が出版され、全国の丸善で販売されている。定価五、〇〇〇円というのも手頃だ。

制作　㈱北斗プリント社
〇七五ー七九一ー六一二五

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports
ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアーウェアー・US放出品
ボーイスカウト用品

Mountain
〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(256)-0546
営業時間 AM10:00～PM8:00 毎週火曜定休
(株) スポーツ コニシ

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真（カラー・白黒）取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

小林地図専門店

株式会社 小林地図専門店
〒600 京都市下京区不明門通六条下る西側
（烏丸通六条東 1筋目下る）　☎（075）351－6598㈹
地下鉄：五条駅　5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品
贈答品総合センター
厚生会指定
サンコークラフト
西島輝雄
左・川端丸太町下る下堤町88
TEL（075）771－3442

平成7年10月1日
京都市中京区壬生坊城町48
京都市交通局内
京交山岳部